

C-56 ガードルの着衣条件が身体生理に及ぼす影響について
日本女大家政 ○大野静枝 東京医歯大衛生 田中正敏

目的 人体腰部の寸法とガードルのサイズとの関係は、ガードルの着衣条件を種種変化させ、その結果衣服圧が変化して人体生理に影響を及ぼすと考えられる。本研究はその生理的影響を調べるために、Plethysmogram による足の第1指の脈波の解析および身体各部位の体表面温度変化の測定を行った。

方法 試料のガードルは標準型のハードタイプ（L社製）のものをを用い、左右の幅を0～6cm つめることにより、サイズを変化させた。被験者は成人女子4名で、ほぼ同様な体形をしているが、ローレル指数は108～161の間にある。実験条件は、被験者の姿勢を立位、奇座位およびしゃがみ込み位の3種に変化して行なわれた。また測定の方法は、皮膚温は前額、上腹、前腕前面、大腿前面、下腿前面、足の第1指の6点および舌下温を小型サーミスタにより測定した。末梢血流量および脈波の形状は空気式plethysmographを用い、左足親指に趾先用カップを取りつけて密閉し、脈波を記録し解析する。また参考のために衣服圧を小型圧力計を用いて電氣的に測定した。

結果 実験結果は、(1)皮膚温変化については、着衣条件、部位、姿勢の要因を含むくり返しある三元配置、(2)最大血流量、脈波形状指数変化については、着衣条件、姿勢の要因を含むくり返しある二元配置法による要因分析を行なった。結果の考察、評価は当日述べる。